

## 津波ハザードマップの活用方法

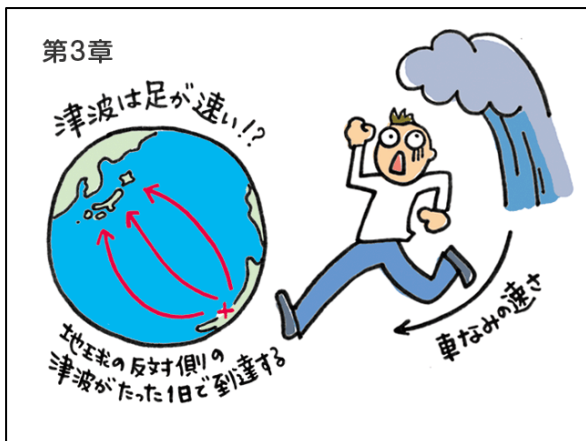
津波ハザードマップに示された浸水予測区域は、あくまで予測上のもの。  
避難すべき場所と経路の事前の確認が、生死を分けることもあります。



### 津波ハザードマップの作成方法

シミュレーションなど科学的な方法により「浸水予測区域」をまず設定し、それに対応する防災情報を表示する、という手順で作られる。

被害があるかないかを知るためのものではなく、より安全に命を守る方法を考えるための資料といえる。

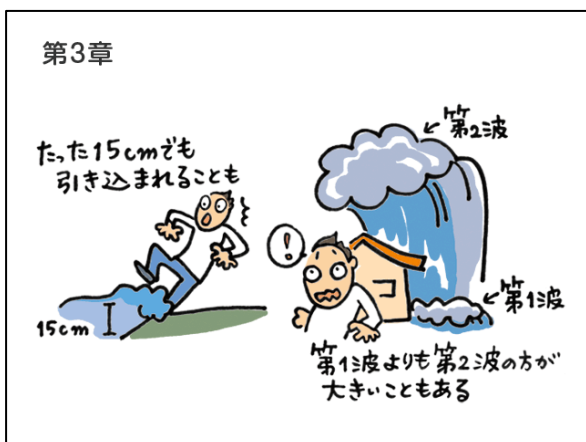


### 津波の特徴

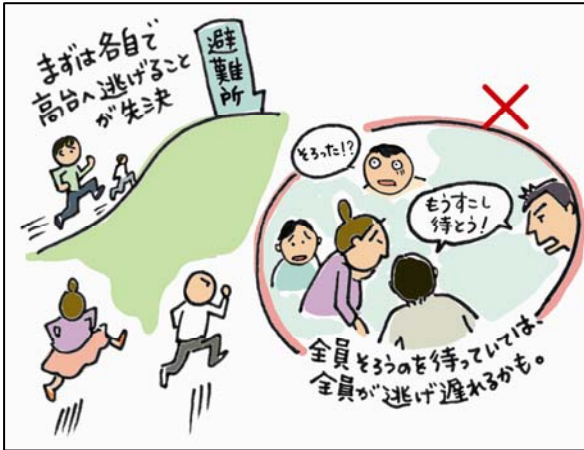
①大きな地震のときにだけ起きるとは限らない。弱い地震であっても、ゆったりとした揺れが長く続くときには、大きな津波が起きる危険がある。

②スピードが非常に速く、エネルギーが大きい。一般的に、陸地に上がると津波のスピードは落ちるが、それでも車やバイク並みの速さ。また、たとえ15cmほどの低い波であっても、足元をすくわれ巻き込まれてしまう場合がある。

③繰り返し襲ってくる。  
東日本大震災では、一度は避難したのに、津波は小さいと判断して自宅に戻ったため次の波に巻き込まれた例も。



MEMO



## 津波への対策

「とにかく急いで、できるだけ高いところに逃げる」が重要。

### 【普段から行っておくべきこと、津波が迫っているときにとるべき行動】

家族・近所・学校・地域などで、それぞれの年齢や体力も考えて「どこへ、どう逃げるか」を具体的に話し合っておく。

いざという時、「各自が自力で逃げているはず」と信じられるようにしておく。

(全員が揃うまで待ったり、様子を見に戻ったりすると、逃げ遅れる場合がある。)

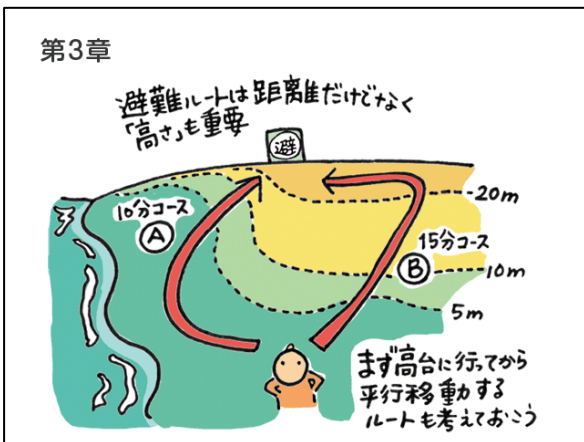
周囲に声をかけながら自分自身が真っ先に逃げることを意識しておく。

(最初に避難することで、多くの命を救うことにもつながる。)



避難場所へ一番早く到着するルートだけではなく、まずはいったん高台へ上ってから安全な場所に平行移動するというルートも考えておくと良い。

津波から逃れて無事に高い場所へ着いた後も、「もっと安全な場所はないか」を考えてさらに避難を続ける。



MEMO

